心身障害学研究，7(1)，21—32，1983

アラバマ版ＰＡＴＳテストとＡＳＫテストの日本版改訂への試み

早　坂　菊　子*・内須　川　洸

アラバマ大学で作成されたＰＡＴＳ.（Parental Attitude toward Stuttering）テストとＡＳＫテストを翻訳し，修正を行なった。ＰＡＴＳテストでは，日米の育児観の違いが得点配分にも反映されて統一したテストがなされ得ないことが予想されるので，一部修正を行なった。すなわち，日本の言語障害児教育にたずさわる専門家50人に調査し，アラバマ版の解答と大きくくい違う項目14を削除し，さらに，86人のデーターをもとに日本版の解答基準を作成した。

ＡＳＫテストでは，専門的知識が必要な項目や，その知識を持っていることが親の態度に影響を与えそうな項目を区別し，重み付けを行なった。重み付け得点と素点との関係が調べられた。

は　じ　め　に

幼児吃音の鑑別評価を行なう際，以下の要因に関し深い理解が求められている（Hugo H. Gregory, & Diane Hill, 1980）。

①子どもの吃音に対するスピーチ，言語面の影響，②両親の行動の諸相が非流暢性のパターンを持続させる要因，③子どもの問題や状況が親をはじめ周囲の環境に影響を与え，また影響を受ける，相互関係的要因，の３つである。しかし，吃音の予後を決めるのに役立つ特殊な要因が存在しているかどうかはいまだに解決されていない基本的な疑問であり（Cherl A. Panell　et, al., 1978），吃の原因，強化，維持要因としての環境内の主要な人物としての両親の果す役割がどのようなものであるかも明確にされていないのである。（Thomas A. Crowe, & Eugene B. Cooper, 1977）。

ここで紹介する Parent Attitude Toward Stuttering テスト（以後ＰＡＴＳテストと略称）とＡＳＫテストは，アラバマ大学で開発されたものであり（1971），吃音に関して両親が示す態度と知識を評価するために特に考案された項目や尺度である。

日本に於ては，内須川洸による「ＨＵ式Ｉ型親子言語関係診断テスト」が開発され，吃音児と母親との特徴的言語関係図が示されている。が，吃音そのものをめぐる両親の態度及び知識に関するテストは未だ開発されていない。

それ故，本テストが，日本の実状に適合したより精選され，確度の高いテストの開発の参考となることを期待している。

目　　的

アラバマ大学で作成されたＰＡＴＳテストとＡＳＫテストを日本の臨床現場で使用し得るよう，その問題点を明らかにし，一部修正を行なうことを目的とする。

方　　法

（Ｉ）　ＰＡＴＳテストの修正

アラバマ大学式ＰＡＴＳテストは，吃音に関する文献から選択され，また言語病理学者（Speech and Language Pathologist）によって提言せられた態度表明から集められた45の文章から出来ている。夫々の項目について，賛意のランキングが１～４で評価され，最も望ましくない応答が０，最も望ましい応答が４，中間的評価として，１，２，３が配当されている。また，両親が答えられなかった項目には，２の中央値が与えられている。（Table 1）

Table 1によって，米国に於て，どのような態度が吃音児にとって望ましいものかがわかる。しかし，日米間での育児態度の違いにより，米国に於けるランキングでは妥当とは思われない項目が出てくることが予想される。そこで，日本の言語障害児教育に

＊　心身障害学研究科

Table 1　PATSテストのアラバマ版のランキング表
（T. A. Gowe, et, al., 1977 より引用）

ITEM	N	Strongly agree		Moderately agree		Undecided		Moderately disagree		Strongly disagree	
		M	R	M	R	M	R	M	R	M	R
1	43	1.56	1	2.77	4	1.88	2	2.44	3	1.35	0
2	42	2.76	3	3.12	4	1.74	2	1.71	1	0.67	0
3	45	0.42	0	1.56	1	1.96	2	3.11	4	3.04	3
4	42	0.43	0	1.43	1	1.81	2	2.88	3	3.45	4
5	41	0.12	0	1.46	1	1.80	2	3.10	3	3.76	4
6	44	0.64	0	1.59	1	1.84	2	2.75	3	3.18	4
7	45	0.67	0	1.82	1	2.02	2	2.82	4	2.67	3
8	45	0.31	0	1.29	1	1.78	2	2.96	3	3.67	4
9	45	0.69	0	1.69	1	1.82	2	2.69	3	3.11	4
10	44	0.95	0	1.93	1	2.14	2	2.64	4	2.34	3
11	45	0.24	0	1.24	1	1.67	2	3.04	3	3.80	4
12	45	1.16	0	2.02	2	1.84	1	2.53	4	2.44	3
13	45	0.93	0	1.84	2	1.82	1	2.69	3	2.71	4
14	45	3.78	4	2.91	3	1.67	2	1.29	1	0.36	0
15	44	0.95	0	1.98	2	1.82	1	2.55	3	2.61	4
16	44	0.57	0	1.50	1	1.64	2	2.84	3	3.41	4
17	44	2.95	4	2.93	3	1.86	2	1.61	1	0.64	0
18	44	1.16	0	2.52	4	1.82	1	2.32	3	1.84	2
19	43	0.65	0	1.93	1	2.00	2	2.74	4	2.67	3
20	44	0.34	0	1.27	1	1.70	2	2.93	3	3.68	4
21	45	0.38	0	1.24	1	1.53	2	3.00	3	3.87	4
22	45	0.47	0	1.38	1	1.62	2	2.93	3	3.60	4
23	44	0.27	0	1.30	1	1.57	2	3.75	3	3.80	4
24	45	3.60	4	3.02	3	1.67	2	1.36	1	0.44	0
25	44	2.34	2	2.73	4	2.61	3	1.93	1	0.41	0
26	45	1.69	0	2.36	3	1.96	2	2.64	4	1.76	1
27	45	0.29	0	1.56	1	1.67	2	2.91	3	3.33	4
28	45	3.20	4	3.02	3	1.64	2	1.42	1	0.71	0
29	44	2.00	1	2.75	4	2.05	2	2.20	3	1.00	0
30	44	0.84	0	2.05	2	1.80	1	2.82	4	2.50	3
31	45	1.29	0	2.02	2	1.80	1	2.64	4	2.24	3
32	42	0.88	0	2.29	3	2.07	2	2.81	4	1.95	1
33	44	0.55	0	1.55	1	1.77	2	2.89	3	3.25	4
34	45	0.53	0	1.69	1	1.89	2	2.80	3	3.09	4
35	45	2.76	4	2.62	3	1.71	1	1.87	2	1.04	0
36	45	3.82	4	2.93	3	1.60	2	1.27	1	0.33	0
37	45	0.38	0	1.24	1	1.67	2	2.98	3	3.73	4
38	45	0.33	0	1.27	1	1.64	2	2.87	3	3.76	4
39	45	1.02	0	2.11	2	2.00	1	2.60	4	2.27	3
40	44	0.30	0	1.32	1	1.57	2	3.00	3	3.82	4
41	44	0.36	0	1.30	1	1.45	2	3.02	3	3.77	4
42	44	0.32	0	1.30	1	1.64	2	3.11	3	3.64	4
43	43	1.98	2	2.63	4	1.77	1	2.02	3	1.60	0
44	45	0.42	0	1.27	1	1.67	2	2.91	3	3.73	4
45	43	1.00	0	1.9.3	2	1.86	1	2.58	3	2.63	4

たずさわる専門家50人を対象に調査を行なった。解答は，A：大いに賛成，B：まあ賛成，B：わからない，D：まあ反対，E：大いに反対，と5つに分け，妥当と思われる解答をA～Eのうちから選択し○をつけるように求めた。無解答には中央値2を与えた。解答数によって順位を定め，米国の結果と対比させたものが，Table 2である。

これは，最も望ましいとする解答数が多いアル

Table 2 PATSテストにおける日米間の賛意度の比較

ITEM	ランク	A	B	C	D	E
1	A	1	4	2	3	0
	J	1(0)	2	1(0)	4	3
2	A	3	4	2	1	0
	J	4	3	0	2	1
3	A	0	1	2	4	3
	J	0	1	2	3	4
4	A	0	1	2	3	4
	J	0	2(1)	2(1)	3	4
5	A	0	1	2	3	4
	J	2(1)	0	2(1)	3	4
6	A	0	1	2	3	4
	J	1(0)	1(0)	2	3	4
7	A	0	1	2	4	3
	J	1(0)	2	1(0)	3	4
8	A	0	1	2	3	4
	J	2(1)	2(1)	0	3	4
9	A	0	1	2	3	4
	J	1	0	2	3	4
10	A	0	1	2	4	3
	J	4	3	2	1	0
11	A	0	1	2	3	4
	J	2,1,0,	2,1,0,	2,1,0,	3	4
12	A	0	2	1	4	3
	J	0	3(2)	1	3(2)	4
13	A	0	2	1	3	4
	J	0	4	1	3	2
14	A	4	3	2	1	0
	J	4	3	2(1)	0	2(1)
15	A	0	2	1	3	4
	J	0	1	3	2	4
16	A	0	1	2	3	4
	J	1(0)	2	1(0)	3	4
17	A	4	3	2	1	0
	J	2	4	3	0	1
18	A	0	4	1	3	2
	J	0	2	1	3	4
19	A	0	1	2	4	3
	J	3	4	1(0)	2	1(0)
20	A	0	1	2	3	4
	J	0	2(1)	2(1)	3	4
21	A	0	1	2	3	4
	J	2,1,0,	2,1,0,	2,1,0,	3	4
22	A	0	1	2	3	4
	J	2(1)	4	3	0	2(1)
23	A	0	1	2	3	4
	J	1(0)	1(0)	2	3	4
24	A	4	3	2	1	0
	J	2	3	4	1	0
25	A	2	4	3	1	0
	J	2	1(0)	1(0)	3	4
26	A	0	3	2	4	1
	J	0	1	3	2	4
27	A	0	1	2	3	4
	J	2	1	0	3	4
28	A	4	3	2	1	0
	J	4	3	2(1)	2(1)	0
29	A	1	4	2	3	0
	J	3	4	2	1	0
30	A	0	2	1	4	3
	J	2(1)	4	3	0	2(1)
31	A	0	2	1	4	3
	J	3	4	2	1(0)	1(0)
32	A	0	3	2	4	1
	J	0	3(2)	1	4	3(2)
33	A	0	1	2	3	4
	J	0	1	2	3	4
34	A	0	1	2	3	4
	J	2(3)	4	1	2	0
35	A	4	3	1	2	0
	J	0	1	3	4	2
36	A	4	3	2	1	0
	J	4	3	2	1(0)	1(0)
37	A	0	1	2	3	4
	J	0	2	3	1	4
38	A	0	1	2	3	4
	J	2,1,0,	2,1,0,	2,1,0,	3	4
39	A	0	2	1	4	3
	J	0	4	1	3	2
40	A	0	1	2	3	4
	J	1(0)	1(0)	2	3	4
41	A	0	1	2	3	4
	J	4	2	3	0	1
42	A	0	1	2	3	4
	J	2(1)	0	2(1)	3	4
43	A	2	4	1	3	0
	J	0	2	1	3	4
44	A	0	1	2	3	4
	J	0	1	2	4	3
45	A	0	2	1	3	4
	J	1(0)	1(0)	3	2	4

A：アメリカ
J：日　本

ファベット項目（A～E）を4，望ましくないものを0，その中間を数によって，3，2，1とした。

45項目中14項目において，日米間を対比して解答に2ランク以上の隔りがあるものがあった。（Table 3）

どのような項目が2ランク以上差のある項目かを検討してみよう。(Table 4)

内容をまとめて記述すると次のようになる。(Table 5)（＋は賛成，－は反対)。

日本では,「吃音児は普通の子どもと同じように扱われるべき」であり，「吃音の事実を知らせるべきではなく」,特に吃音ということを意識させずに育てる方が良く，そのために両親の「態度，心得」が大切な問題となる，と考えられている。何故なら「両親の注意によって吃がはじまるから」であり，両親は「忍耐強くあらねばならず」「罰っしたり,恥じたり,腹を立てたりしてはならない」ということになる。また吃音児は普通の子どもと同じなのであるから「言葉のいらない趣味や行動を求める」べきではないのである。

アメリカに於てこの事情は正反対ともいえ,「吃音の事実を子どもに知らせ」,「言葉のいらない趣味や

Table 3　PATSテストに於て(日米間で)
2ランク以上差のある項目

ITEM	ランク	A	B	C	D	E
1	A	1	4	2	3	0
	J	1(0)	2	1(0)	4	3
10	A	0	1	2	4	3
	J	4	3	2	1	0
13	A	0	2	1	3	4
	J	0	4	1	3	2
18	A	0	4	1	3	2
	J	0	2	1	3	4
19	A	0	1	2	4	3
	J	3	4	1(0)	2	1(0)
22	A	0	1	2	3	4
	J	2(1)	4	3	0	2(1)
25	A	2	4	3	1	0
	J	2	1(0)	1(0)	3	4
30	A	0	2	1	4	3
	J	2(1)	4	3	0	2(1)
31	A	0	2	1	4	3
	J	3	4	2	1(0)	1(0)
34	A	0	1	2	3	4
	J	2(3)	4	1	2(3)	0
35	A	4	3	1	2	0
	J	0	1	3	4	2
39	A	0	2	1	4	3
	J	0	4	1	3	2
41	A	0	1	2	3	4
	J	4	2	3	0	1
43	A	2	4	1	3	0
	J	0	2	1	3	4

※ 4 は，最も強く賛意を示した解答

行動を求め」させる。一方「両親が子どもを恥ずかしく思い腹を立てるのはやむをえないこと」と考え，特に「忍耐すべきもの」とは考えていない。しかし「両親に重い責任がある」としているのはアメリカの方なのである。アラバマ大学での調査による限りでは，アメリカ人の方が，吃音を「子ども自身の問題」と考え，環境調整をとりたてて考えているとは思われない。しかし両親の責任は追求している。両親は「吃音の事実について子どもに知らせ」，吃を持ちながらやってゆける方途を探すよう援助する責任を持つと考えているらしい。一方，我が国では，吃音の原因は両親にあるので，子どもには責任がなく，両親は何ごとでもないように吃音児に接するべきであると考えられ，そうである一方，「両親にあまり重い負担を負わせてはならない」と考えているのである。

日本の方がたてまえ主義，過保護的姿勢が感じられるのではないだろうか。

さて，以上のようにラ2ランク以上の差のある項目を除き作成された日本版ＰＡＴＳテストが本論文末に示されている。（附表１）

さらに，日本の言語障害児教育にたずさわる専門家36人に，アラバマ版にて調査したところ（J_2とする），先の50人の解答（J_1とする）とJ_2との間には2ランク以上の差は見られず，日本人の中では大体同様の解答傾向が得られることがわかった。Table 6の通りである。

しかし，1ランク差のある項目が12項目あり，J_1とJ_2を加算した解答で再度1～4のランク付けを行ない再終版スケールとした。以下Table 7の如くである。

（II） ＡＳＫテストの修正

アラバマ大学式ＡＳＫテスト（吃音知識テスト）を翻訳した。アラバマ版での項目6は，アラバマ版での解答が誤っているとの判断でテストより消去した。よってテストは25項目よりなる。(Table 8)

Table 4　DATSテストに於いて日米間に2ランク以上差のある項目

項目番号	設　　問	"4"に評点のあった態度	
		アメリカ	日　本
1.	教師が吃音児を暗唱から免除してやるのは良い場合があります。	まあ賛成	まあ反対
10.	吃音児の両親が，いつもリラックスするようにさせていると，子どもの言葉はもっとリラックスしてなめらかになるものです。	まあ反対	大いに賛成
13.	他の兄弟とは違って，吃音児を訓練することは一般に特別な忍耐が必要です。	大いに反対	まあ賛成
18.	吃音児と公共の場にいっしょにいるとき，両親が恥ずかしいと思うのは正常な反応として認められるべきです。	まあ賛成	大いに反対
19.	ある場面では，両親が吃音児に避けないようにと忠告したりといった心得ておかねばならないことがあります。	まあ反対	まあ賛成
22.	吃音児が正常に話しているのをみると，他の大人と同様に，両親ももっと丁寧に話せばよいのに，と思うのは当然のことです。	大いに反対	まあ賛成
25.	言葉のいらない趣味や行動を求めるように両親からはげまされるのは，吃音児にとって有益でしょう。	まあ賛成	大いに反対
30.	吃音のはじまりの指標として"注意"をとり上げることは，多くの場合，論理的な仮定でしょう。	まあ反対	まあ賛成
31.	吃音児を罰することを止めると，言葉の問題を悪化させるのを防ぐことができます。	まあ反対	まあ賛成
34.	しゃべるのに先立って深く息をするのは，吃音者に有益でしょう。	大いに反対	まあ賛成
35.	吃音の事実について吃音児に知らせることは，有益な訓練となるでしょう。	大いに賛成	まあ反対
39.	吃音の原因についての論理的な結論は多くの場合，両親が主要な責任を負うということになりましょう。	まあ反対	まあ賛成
41.	吃音者に重い責任を負わせることは，一般的に良い考えではないでしょう。	大いに反対	大いに賛成
43.	吃った時に吃音の子どもに腹を立てて叱ってはいけないというのは，両親にとって無理な注文でしょう。	まあ賛成	大いに反対

Table 5　Table 4のまとめ

	アメリカ	日　本
吃音児を平等に扱う。	−	＋
両親の態度によって吃は変化する。	−	＋＋
両親は忍耐すべき。	−−	＋
吃音児をはずかしく思うのは当然。	＋	−
吃に対する両親の心得がある。	−	＋
要求水準の高さ。	−−	＋
言葉のいらない趣味を求めるべき。	＋	−−
両親の注意によって，吃がはじまる。	−	＋
罰しないと吃が防げる。	−	＋
深呼吸によって吃を防ぐ。	−−	＋
事実をしらせる。	＋＋	−
両親に重い責任を負わすべきでない。	−−	＋＋
吃の子どもに腹を立てることは仕方がない。	＋	−−

25項目中で(1)専門的知識の有無によって影響される項目，(2)吃音について最低限知っておく必要がある知識で，それが欠けていると態度面にも影響を及ぼす項目，を検出する目的で，以下の操作を行なった。

(1)　専門家群と母親群で解答の誤りについて X^2 検定を行なうこと

(2)　ＡＳＫテストの低得点群内で誤りの頻度の多いものを検出すること。

以上(1)(2)を行ない，得点に重み付けを行なった。重み付け得点と素点の間の関係については後述する。

(1)　言語障害児教育に係わる専門家(N＝48)，非吃音幼児を持つ母親(N＝160)にテストを施行した。項目別の誤りの頻度を母親群と専門家群で対比したものが Table 9 である。

両群間で項目ごとに x^2 検定を行なったところ，以下の項目に有意差がみられた。(Table 10)

これらの項目については，専門的知識がないと不利な項目とみなし，重み付け得点1を与えた。以下の項目である。

1　吃音は，男の子より女の子の方に多い。

5　吃音は平均，話し言葉の⅓近く吃る。

Table 6　PATSテストにおける日本内での賛意度の比較

ITEM	ランク	A	B	C	D	E
2(1)	j1	4	3	0	2	1
	j2	4	3	0	2	1
3(2)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
4(3)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	2	1	3	4
5(4)	j1	1	0	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
6(5)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
7(6)	j1	0	2	1	3	4
	j2	0	2	1	3	4
8(7)	j1	1	2	0	3	4
	j2	0	1	2	3	4
9(8)	j1	1	0	2	3	4
	j2	1	0	2	3	4
11(9)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
12(10)	j1	0	2	1	3	4
	j2	0	1	2	3	4
14(11)	j1	4	3	2	0	1
	j2	4	3	2	0	1
15(12)	j1	0	1	3	2	4
	j2	0	1	2	3	4
16(13)	j1	0	2	1	3	4
	j2	0	2	1	3	4
17(14)	j1	2	4	3	0	1
	j2	2	3	4	1	0
20(15)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
21(16)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
23(17)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
24(18)	j1	2	3	4	1	0
	j2	2	3	4	1	0
26(19)	j1	0	1	3	2	4
	j2	0	1	3	2	4
27(20)	j1	2	1	0	3	4
	j2	0	2	1	3	4
28(21)	j1	4	3	2	1	0
	j2	4	3	1	2	0
29(22)	j1	3	4	2	1	0
	j2	3	4	2	1	0
32(23)	j1	0	3	1	4	2
	j2	0	4	1	3	2
33(24)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	3	2	4
36(25)	j1	4	3	2	1	0
	j2	4	3	2	0	1
37(26)	j1	0	2	3	1	4
	j2	0	1	3	2	4
38(27)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
40(28)	j1	0	1	2	3	4
	j2	0	1	2	3	4
42(29)	j1	1	0	2	3	4
	j2	1	0	2	3	4
44(30)	j1	0	1	2	4	3
	j2	0	1	2	4	3
45(31)	j1	0	1	3	2	4
	j2	0	1	3	2	4

Table 7　PATSにおける日本版のランキング表

ITEM	ランク				
1	4	3	0	2	1
2	0	1	2	3	4
3	0	2	1	3	4
4	0	1	2	3	4
5	0	1	2	3	4
6	0	2	1	3	4
7	0	1	2	3	4
8	1	0	2	3	4
9	0	1	2	3	4
10	0	1	2	3	4
11	4	3	2	0	1
12	0	1	2	3	4
13	0	2	1	3	4
14	2	3	4	1	0
15	0	1	2	3	4
16	0	1	2	3	4
17	0	1	2	3	4
18	2	3	4	1	0
19	0	1	3	2	4
20	0	2	1	3	4
21	4	3	1	2	0
22	3	4	2	1	0
23	0	4	1	3	2
24	0	1	3	2	4
25	4	3	2	0	1
26	0	1	3	2	4
27	0	1	2	3	4
28	0	1	2	3	4
29	1	0	2	3	4
30	0	1	2	4	3
31	0	1	3	2	4

11　吃音者は，同じ文章を何度も音読すると，読むたびに吃り方が少なくなる。

12　吃音は，一般的に身体的問題の故であると考えられている。

14　大多数の専門家は，吃音には多くの種類があると考えている。

15　吃音者は非吃音者よりも話すことが少ないと言われている。

17　吃音者は，1音節よりも，中間または2音節に吃りやすい。

19　歌のリズムにあわせてしゃべれば，もっとなめらかに話せる。

24　吃音は，いくつになってもなおることができる。

25　吃音者には，ある同一のパーソナリティ特性がある。

(2)　ＡＳＫテストの得点の高いグループと低いグループの間でＰＡＴＳテストの得点に差がみられるか調べた。被調査者は，非吃音幼児を持つ母親（N＝36）である。これによって，吃音について正しい知識を持っていることが吃音への望ましい態度を反映するかを調べた。N＝64において $\bar{X}$＝15.90，ＳＤ＝3.29であった。ＳＤによって高得点群，中得点群，低得点群を分けると人数に大きな偏りがみられるので，15.90を中央にして，19以上を A_1 グループ，14以下を A_3 グループとし，中央(14－18)を A_2 グループとした。（A_1・N＝14，A_2・N＝40，A_3・N＝9）（Table 11）

グループ（A_1，A_3）間でＰＡＴＳ得点の差の検定を行なった。（Ｈテストによる）Ｈ＝5. 32，結びの修正値Ｃ≒0.99，よって修正された H_c は，H_c＝Ｈ／Ｃ＝5.32／0.99≒5.33，df＝2，よって，0.1＞Ｐ＞0.05となり，吃音に関する知識のある群の方がその態度面でいささか良好な成績を示す傾向にあることがわかった。

さて，Table 12より，A_1 と A_3 間で誤りのパーセンテージが40以上差のある項目は，5，6，7，12，16，17，19，20，21，22，23，24，25である。

これらの項目は，特に低得点群において誤りが多くみられるものであり，こうした項目について正しい知識を与えることが態度面の改善につながることを予想し，得点1を与えた項目を除き，得点3を与えた。項目は以下のものである。

6.　人口の約5％の者は，いずれかの時期に吃ったことがある。

7.　吃音者は全ての音に同じ位困難を感じる。

16.　いかなる時でも，吃音者は人口の1％弱である。

20.　吃音者の大多数は，3才前に吃りはじめる。

21.　5人のうち4人は，治療しなくても吃りから回復する。

22.　吃音は家庭の中で悪くなる。

23.　吃音は，最も高い社会的経済的水準の家庭で見られる。

得点1，3のいずれにも該当しない項目には得点2を与え，全項目につちてTable 13のように重み付けを行なった。

素点と負荷点（重み付けを与えた得点）との関係を調べてみた。被調査者はＳ県小児保健センターにて言語障害教育のセミナーを受講した保健婦，言語治療士，医師，臨床心理師50人である。（Table 14）

素点と対応する負荷点の平均はTable 15に示されている。

図に表わすと次のようになる。（Fig.1）

負荷点であらわされる素点段階での対応幅が段階ごとにまちまちであり，重複している部分も多くあ

る。しかし，平均値でみると順位が逆転することはない。改善の余地は多くあるが，素点で同一得点をとっても，その内容が様々であることが表わされ，よりいっそう tentative なスケールであると言えよう。

ま と め

アラバマ版ＰＡＴＳテストとＡＳＫテストに修正を加え，日本版の改訂試案を作成した。

(1) ＰＡＴＳテストに於ては，アラバマ版の 45 項目中から日米の育児態度の違いを大きく反映する 14 項目を削除し 31 項目のテストについて，解答のランキングを作成した。

(2) ＡＳＫテストに於ては，専門的知識の有無に左右される項目態度の改善への指標となり得る項目を検出し，重み付け得点を与えたスケールを作成した。

謝　　辞

調査に協力して下さった全国の言葉の治療教室の先生方，埼玉県小児保健センターの言語課の皆様に感謝いたします。また，心身障害学研究科の森河孝夫氏は，データーの整理・分析に協力して下さいました。併せて感謝致します。

引 用 文 献

1 Cherl A. Panelli, Stephen C. McFarlane & Kenneth G. Shipley. Implications of Evaluating and Intervening with Incipient Stutterers. Journal of Fluency Disorders, 1978,3,41-50.

2 Hugo H.Gregory, & Diane Iill,. Stuttering Therapy for Children. Seminars in Speech, Language and Hearing, 1980, Vol 1, No 4, 351-363.

3 Thomas A. Crowe & Eugene B. Cooper. Parental Attitude toward and Knowledge of Stuttering. Journal of Communications Disorders 10, 1977, 343-357.

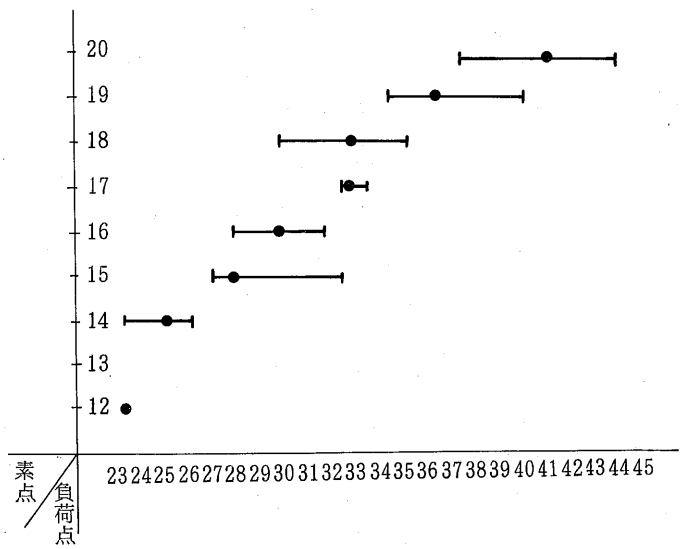

Fig. 1. ＡＳＫテストにおける素点に対応する負荷点
●は平均値

Table 8

きつ音知識テスト　　年　月　日　　年令　　職業　　職業年数　　学歴

※　以下の文章が正しいとき○、誤っているとき×をつけなさい。

1　きつ音は、男の子より女の子の方に多い。

2　きつ音者の大多数は、2～3の場面では、ほとんどなめらかに話せる。

3　きつ音の原因は、多くのばあい、子どものときの具体的事件に求められる。

4　きつ音は、突然はじまる。

5　きつ音者は平均、話し言葉の$\frac{1}{3}$近くどもる。

6　人口の約5%の者は、いずれかの時期にどもったことがある。

7　きつ音者は、全ての音に同じ位困難を感じる。

8　きつ音者は、同じ単語にどもりやすい。

9　きつ音と知能とは関係ない。

10　きつ音者は、自分のどもる言葉を予想できることがよくある。

11　きつ音者は、同じ文章を何度も音読すると、読むたびにどもり方が少なくなる。

12　きつ音は、一っぱん的に身体的問題の故であると考えられている。

13　ほとんどのきつ音者は、幼児期にどもりはじめ、大人になる前にどもらなくなるので、多くの専門家達は、きつ音を子どもの障害であると考えている。

14　大多数の専門家は、きつ音には多くの種類があると考えている。

15　きつ音者は非きつ音者よりも話すことが少ないと言われている。

16　いかなる時でも、きつ音者は人口の1%弱である。

17　きつ音者は、1音節よりも、中間または2音節にどもりやすい。

18　きつ音者は、大きな声でしゃべればしゃべるほどもっとなめらかに話せる。

19　歌のリズムにあわせてしゃべれば、もっとなめらかに話せる。

20　きつ音者の大多数は、3才前にどもりはじめる。

21　5人のうち4人は、治療しなくてもどもりから回復する。

22　きつ音は、家庭の中で悪くなる。

23　きつ音は、最も高い社会的経ざい的水準の家庭で見られる。

24　きつ音は、いくつになってもなおることができる。

25　きつ音者には、ある同一のパーソナリテイ特性がある。

Table 9　ASKテストにおける専門家群と母親群の項目別誤り頻度数　(　)内は%

項　目	1	2	3	4	5	6	7	8	9
母親群 (N=160)	15 (0.4)	32 (20)	128 (80)	89 (57)	83 (52)	—	50 (31)	61 (38)	22 (14)
専門家群 (N=48)	0 (0)	6 (13)	11 (23)	11 (23)	13 (27)	— —	11 (23)	1 (2)	6 (13)
項　目	10	11	12	13	14	15	16	17	18
母親群	15 (9)	48 (30)	39 (24)	23 (14)	80 (50)	40 (25)	112 (70)	115 (12)	42 (70)
専門家群	4 (8)	0 (0)	10 (21)	0 (0))	26 (54)	4 (8)	24 (50)	19 (40)	0 (0)
項　目	19	20	21	22	23	24	25	26	
母親群	13 (8)	84 (53)	56 (35)	53 (33)	55 (34)	28 (18)	48 (30)	86 (54)	
専門家群	5 (10)	17 (35)	17 (35)	9 (19)	11 (23)	3 (6)	30 (63)	10 (21)	

項目6は，アメリカにおける答えが誤っているとの判断で，テストより消去した。
これより，7番以下の番号は，(－1)の番号となる。7→6，8→7

Table 10　ASKテストにおける母親群と専門家群間の項目別X^2検定の結果

ITEM		
1	X	X^2=4.85
2		1.39
3	XX	54.27
4	XX	15.84
5	XX	9.13
6		1.24
7	XX	22.92
8		0.05
9		0.05
10	XX	18.72
11		0.26
12	XX	7.76
13		0.26
14	X	6.15
15	X	6.53
16	XX	16.80
17	XX	15.79
18		0.25
19	X	4.31
20		0.00
21		3.65
22		2.24
23		3.68
24	XX	16.64
25	XX	16.10

X＝p＜0.05
XX＝p＜0.01

Table 11　ASKテストにおける3群のASK, PATSテストの平均得点

グループ	ASKテスト　平均	PATSテスト　平均	数
A 1	ASK＝20.21	PATS＝94.14	n＝14
A 2	ASK＝15.4	PATS＝95.55	n＝40
A 3	ASK＝10.55	PATS＝89.56	n＝ 9

Table 12　A1, A2, A3各群のASKテストにおける項目別誤り数とパーセント

ITEM 群	A 1	A 2	A 3
1	0	2(5)	4(44)
2	0	10(25)	3(33)
3	8(57)	38(95)	8(88)
4	4(28)	25(62)	6(66)
5	5(35)	20(50)	7(77)
6	2(14)	18(45)	5(55)
7	3(21)	11(27)	7(77)
8	0	10(25)	3(33)
9	0	6(15)	0
10	3(21)	12(30)	5(55)
11	1(7)	11(27)	2(22)
12	0	5(12)	4(44)
13	2(4)	25(62)	4(44)
14	1(7)	10(25)	4(44)
15	10(71)	29(72)	8(88)
16	6(42)	31(77)	8(88)
17	2(14)	18(14)	6(66)
18	0	6(16)	1(11)
19	5(35)	18(45)	9(99)
20	5(35)	8(21)	8(88)
21	0	14(35)	4(44)
22	2(14)	19(47)	7(77)
23	0	6(15)	5(55)
24	1(7)	16(40)	4(44)
25	5(35)	21(53)	9(99)

Table 13　ASKテストにおける重み付け得点

ITEM	重み付け点
1	1
2	2
3	2
4	2
5	1
6	3
7	3
8	2
9	2
10	2
11	1
12	1
13	2
14	1
15	1
16	3
17	1
18	2
19	1
20	3
21	3
22	3
23	3
24	1
25	1

Table 14　ASK TESTにおける素点と負荷点

Subject	素点	負荷点
1	18	35
2	15	29
3	17	33
4	15	31
5	16	30
6	15	27
7	14	25
8	15	27
9	19	37
10	16	31
11	19	38
12	18	35
13	20	38
14	18	34
15	19	35
16	17	33
17	15	29
18	15	29
19	18	35
20	18	30
21	18	33
22	14	23
23	15	27
24	19	41
25	16	31
26	17	34
27	19	37
28	18	34
29	16	28
30	18	33
31	19	37
32	15	27
33	14	26
34	18	31
35	12	23
36	18	36
37	17	33
38	15	33
39	17	34
40	16	28
41	16	32
42	14	26
43	16	30
44	18	34
45	18	35
46	19	37
47	17	33
48	16	30
49	18	33
50	20	45

Table 15　ASKテストにおける素点に対応する負荷点の平均

素　点	負荷点の平均
12	23
13	
14	25
15	28.78
16	30
17	33.33
18	33.69
19	37.43
20	42

Summary

A trial of "PATS" and "ASK" Tests originated by University of Alabama into the Japanese revised.

Kikuko Hayasaka and Hiroshi Uchisugawa

The PATS(Parental Attitude toward Stuttering) and ASK Tests originated by Univ. of Alabama were partly modified from the different view point of education between both countries in which the distribution discrepancy of scores might be displayed and translated into Japanese. That is, the particular 14 items of the PATS, which obtained the significant differences between Japan and U.S.A., should be omitted using the subjects of investigation who consist the 50 school teacchers belonged to the Special Education Class teaching the speech & hearing disorded children, and thereafter the Japanese standardization should be established using the subjects of the same 86 teachers.

Besides, some sorts of items concerned with the professional knowledges toward stuttering which might effect the parental attitude should be selected and gotten weighted in case of ASK test.

（附．1.）

（改定） PATS テスト　　年　　月　　日　　年令　　職業　　職業年数

あなたは，きつおんのお子さんをお持ちですか。　　はい　　いいえ

あなたのお子さんのうちで，どもったことのあるひとがいますか。　　はい　　いいえ

※きつ音に対するあなたの態度を最もよく示しているものを，次のそれぞれの文章の中から1つ選んで，A～Eに◯をつけなさい。

A. 強く賛成　　B. まあ賛成　　C. わからない　　D. まあ反対　　E. 強く反対

1	幼児のきつを問題にしないという方法が両親にとって最善の方法でしょう。	A	B	C	D	E
2	きつ音者は，あまりしゃべらなくてすむ仕事につくように，はげまされるべきでしょう。	A	B	C	D	E
3	言葉がどもって出ない時に，その言葉を言ってあげることは，きつ音者の助けとなるでしょう。	A	B	C	D	E
4	きつ音児はどもるので，家庭の中で他の兄弟とは違う特別な配慮がされるべきでしょう。	A	B	C	D	E
5	子どもが一度どもると，くり返しどもるようになると思います。	A	B	C	D	E
6	どもった言葉がスラスラとしゃべれるようになるまで何度もくり返させることは，きつ音児のためになるでしょう。	A	B	C	D	E
7	きつ音児に，自分は他の子どもとは違うということを気付かせることは，多くのばあい，最善の治療法でしょう。	A	B	C	D	E
8	なめらかな話し方に改善するのには，どもってはいけないと言って，言葉を中断するのが役立つでしょう。	A	B	C	D	E
9	きつ音児が出たいと言っても，夕食後の家族会議には参加させてはいけません。	A	B	C	D	E
10	ある場面では，他人から無視されることの方が，きつ音児にとって最大の救いとなることがあるものです。	A	B	C	D	E
11	両親が子どもの良い聞き手となることは，きつ音に対する良い態度でしょう。	A	B	C	D	E
12	きつ音児は，どもりをちょう笑されても仕方のないこととして受けとめるべきです。何故ならば，それで悪くなるわけではないからです。	A	B	C	D	E
13	子どもは両親にとってきつ音に対する不安をおこさせられたり，きつ音に対する態度について影響を受けるものではありません。	A	B	C	D	E
14	子どもときつ音についての感情問題について話しあうことによって，子どものきつへの適応を助けることがよくあります。	A	B	C	D	E
15	どもっていることを他人に気付かせないよう速く話すテクニックを教えることは，両親のなすべき軽減法であるように思えます。	A	B	C	D	E
16	子どもがどもったときホオをうつことは，きつ行動のひん度を減少させるのに有効でしょう。	A	B	C	D	E
17	女どもはどもりだから，成績が低くてもしかたがないと両親は思うべきです。	A	B	C	D	E
18	自分の子どものきつの重さは，軽いように思います。	A	B	C	D	E
19	他の子どもにからかわれても何とも感じなくなれば，むしろからかわれることが，きつ音児にとって最上の救いとなります。	A	B	C	D	E
20	恐怖という言葉ときつ音とは本来無関係でしょう。	A	B	C	D	E
21	両親の誤った態度は，きつ音児の問題に影響するでしょう。	A	B	C	D	E
22	心理療法は，きつ音治療に一般的には有効でしょう。	A	B	C	D	E
23	話す前に考えることは，きつのひん度と重症化を減少するのに有効でしょう。	A	B	C	D	E
24	きつ音には生まれつきのものがあって，両親の影響によって生じたものではない，というケースもあります。	A	B	C	D	E
25	言葉の問題のある子どもによって，母親は強力な要因となります。	A	B	C	D	E
26	きつ音児にとっては，非きつ音児よりも高等教育は重要ではありません。	A	B	C	D	E
27	きつ音児にデートや結婚，仕事において人並なことは期待できないと教えることが大切です。	A	B	C	D	E
28	自分の子どもはどもりだから，と言いわけをするのは賢いことと思われます。	A	B	C	D	E
29	きつ音は個人的なことなので，家庭外でいろいろ論議されるべきではありません。	A	B	C	D	E
30	きつ音は生まれつきの性格の弱さの前ちょうであると考えられます。	A	B	C	D	E
31	きつ音は，盲より悪いものだと思います。	A	B	C	D	E